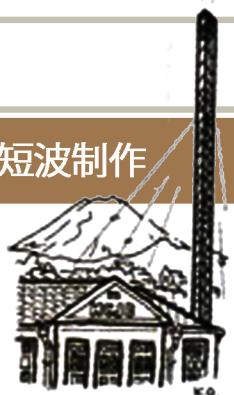


PROGRAM NOTE

「こころの放送アンデスの声—36年の軌跡」ラジオ短波制作

プロローグ：新世紀の夜明け

南米エクアドルから放送された「アンデスの声」が、2000年12月をもって36年間の幕を閉じた。放送終了を惜しむリスナーの声を耳にした「ラジオ短波」では21世紀の幕開けとともにBSデジタル放送（BSC301）に「アンデスの声」を登場させラジオでも、録音構成による「こころの放送アンデスの声—36年の軌跡」をドキュメント番組として企画した。



第一部 燃跡から自衛隊へ 5月4日放送

私の故郷は、本州西の端、山口県下関市。終戦直前、B-29爆撃機による焼夷弾爆撃で家を焼かれ、母と小学生の弟と中学にあがったばかりの私の三人は、トタン屋根の下で裸一貫の夏を過ごした。当時、学制改革で旧制中学が格上げされたため工業高校造船科では6年間学んだ。その後、進学も就職もせずに私は人生の基礎固めにと保安隊（自衛隊）を志願。英語を必要とする札幌北部方面総監本部の涉外情報部に配属となった。ある日、アメリカ人宣教師と出会ったことで私の人生航路は大きく舵を切った。これまでの自分中心的な生き方はやめて、これからは神と人に仕えたいと決意し、必要な訓練を受けるために上京して神学校に入った。

第二部 神学校から放送宣教へ 5月11日放送

神学校での四年間の学びは楽しく有益だった。卒業前、太平洋放送協会の総支配人ホーリツ師がチャペルにきて「放送伝道」にチャレンジした。講壇をおりると、なぜか私のところへやってきた。「尾崎さん、放送の仕事は大事です。あなたが必要です。」こう言うと大きな手で私の手をぐつと握りしめた。これが私と「放送」が結びついた瞬間だった。間もなく、南米エクアドルのHCJB放送局から南米に散在する75万人の日系移住者家族のために日本語放送を開始しようという話がもちあがった。1963年6月、私たち家族はその使命をおびて南米の地へ飛び立つことになり、翌年5月、日本語放送がアンデスの峰をこえて大空をかけることになった。

第三部 「南米ふれあいの旅」5月18日放送

日本人のブラジル移住は、1908年6月、751名の農業契約移民を乗せた笠戸丸がサントスに入港してはじまった。いまでは日系人の数は120万を越えるが、その長い歴史はけっして平坦な道ではなかった。祖国を遠く離れての移住者の苦労ははかり知れないものがある。それだけに、一日のきびしい労働を終え、家族みんなで夕食を囲みながら放送に耳を傾けることができる「砂漠のオアシス」のようなひとときだった。放送開始から31年目。はじめて南米各地を巡回してリスナーの方たちと直接会う機会が与えられ、ペルー、ボリビア、ブラジルの3ヶ国を一ヶ月間飛びまわった。待ちわびていたリスナー一家族と肩を抱き合い、直接話し合うことで「アンデスの声」がまさに「こころの放送」となっていることを実感することができた。

第四部 上を向いて歩こう 5月25日放送

日本の急激な経済成長で海外駐在員や留学生が激増したため、「アンデス声」は放送範囲を北米や欧州を加えて合計4方向に拡大した。1970年代後半になって、日本で大手電気メーカーによる短波受信機の売り込みキャンペーンが功を奏し、中高生を中心に短波受信ブームが巻きおこり、局にとどくる受信報告書も月7千通を越えるという空前の数を記録した。BCLブームは去ったが、定着したリスナーとの緊密な交流が深まつた矢先、エクアドル政府が新国際空港建設のためHCJBの送信所全面撤退を強行。アンテナはすべて解体された。2000年大晦日、「アンデスの声」も最後を飾る一時間の特別番組で別れを告げた。その後、インターネット放送とBSデジタル放送（前述）はつづけられたが、2年後に一時帰国したときに「ラジオ短波」のスタジオにHCJB愛聴者に集まってもらい将来について話合ってみたが何もみえなかつた。ともかく希望だけは捨てないようにと、最後にみんなで「上を向いて歩こう」を歌って別れた。

エピローグ：よみがえった短波

何もみえないという思惑をよそに、南米から太平洋をぐるりとまわったオーストラリアで何かが起こっていた。ひとつの扉が閉ざされると別の扉が開かれるように、オーストラリア政府からHCJBに短波放送の許可が突然おりたのだ。日本の短波リスナーも反応し、その結果、2006年6月3日、日本語放送が週二日（土曜・日曜）30分番組でよみがえることになった。「いったんやめた放送が再開されるのは奇跡だ」とリスナーは驚いた。あれから7年。現在、遠くからの声に耳を澄ませる往年のリスナーやBCLブーム復活組は、年齢的には物事を真剣に考えて行動する人たちで占められている。今の日本が最も必要とする人材だ。そのことを誇りに思い大いに期待しながら、私自身それなりの責任を果たすべく残る人生を歩みたいと願っている。（この番組は2003年日本民間放送連盟参加作品として高い評価を受け、現在横浜にある放送専門アーカイブ施設「放送ライブラリー」に永久保存されている。矢吹健一プロデューサー）

サタデー・トーク

きき手 尾崎一夫

毎週土曜日放送

| | |
|-------|-------------------------|
| 5月04日 | こころの放送「アンデスの声」36年の軌跡（1） |
| 5月11日 | こころの放送「アンデスの声」36年の軌跡（2） |
| 5月18日 | こころの放送「アンデスの声」36年の軌跡（3） |
| 5月25日 | こころの放送「アンデスの声」36年の軌跡（4） |

バイブル・トーク

東京淀橋教会 峯野龍弘主管牧師

毎週日曜日放送

| | |
|-------|-------------------|
| 5月05日 | 魂の叫び：旧約聖書詩篇特選シリーズ |
| 5月12日 | 魂の叫び：旧約聖書詩篇特選シリーズ |
| 5月19日 | お便り交換の時間です |
| 5月26日 | 魂の叫び：旧約聖書詩篇特選シリーズ |

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.hcjb.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15525kHz （再放送） 午後7時55分～8時25分 15490kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)